

モデル事業名	絵本と木の実の美術館運営事業
活動団体名	特定非営利活動法人 越後妻有里山協働機構
ホームページ	<a href="http://www12.ocn.ne.jp/~ehon2009/index.html">http://www12.ocn.ne.jp/~ehon2009/index.html</a> (絵本と木の実の美術館) <a href="http://echigo-tsumari.jp">http://echigo-tsumari.jp</a> (大地の芸術祭)
所属/ 担当者名	NPO 法人越後妻有里山協働機構 高橋園子
連絡先	TEL 025-597-3770 / Mail tsumari@artfront.co.jp
活動地域	新潟県十日町市真田地区鉢集落

### ● 活動地域の概要

十日町市真田地区鉢集落

人口 1980年 425人 2008年 148人 28年間で65%減(277人減)  
 世帯数 1980年 95世帯 2008年 60世帯 28年間で37%減(35世帯減)  
 高齢化率 1990年 25.65% 2008年 42.93% 18年間で17%増  
 公共交通機関 バス 十日町駅行き 1日7本

- ・真田地区は、十日町市の中心部から西へ6kmほどの位置にある日本有数の豪雪地であり農村地区である。
- ・平成17年3月に、唯一の小学校が廃校となり、その利活用によるコミュニティ創生に向けて「大地の芸術祭」(2009年夏第4回展開催、50日間来場者37万5千人)の取り組みを中心とした活動地域活性化の活動が動き出している。



新たな活動拠点として再生される旧真田小学校



大地の芸術祭を積極的に誘致。海外アーティストやボランティアとの交流も続いている。

### ● 活動地域の課題

真田地区では、少子高齢化にともない平成17年3月末には地区内に唯一あった真田小学校が廃校となるなど、集落のコミュニティと活力の低下が大きな課題となっている。一方、十日町市及び津南町では、中山間地域のこれらの諸問題を解決する方策として全国に先駆け里山や棚田などの豊かな自然の中で、市町全域にわたって現代アート作品の制作・展示を行い地域の活性化をめざす「大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ」を平成12年から3年ごとに開催している。真田地区内においても、集落に展開される作品制作に集落全体でサポートし、来訪者をもてなす心をはぐくんできた。持続的な地域づくりを進めていく過程で、真田地区鉢集落にとって解決しなければならない課題が、以下のとおり明確になった。

#### ①交流の通年化

3年に1度の芸術祭の会期中は来訪者で賑わうが、会期が終わると活気が失われてしまい、冬季は深い雪に閉ざされてしまう。地域に恒常的に人が訪れ、賑わいをつくることで地域の元気を再生する必要がある。

#### ②廃校の利活用

集落住民の心の拠り所であった旧真田小学校の校舎を、(財)地域活性化センター補助事業により、絵本作家田島征三による「絵本と木の実の美術館」として改修できたことから、これを地域資源として地域の活性化のために持続可能な活動を行う必要がある。

#### ③失われつつある地域文化の保存・継承

過疎化、高齢化で地域の知恵や文化、特に地域に古くから伝わる民話や昔話が消えつつあり、これを保存し、将来に伝承していく必要がある。

#### ④多様な主体による集落の担い手づくり

旧5市町村の合併後、役場の機能が縮小しつつある。「大地の芸術祭」の持つアーティストや地域外サポーター・専門家のネットワークを活かし、地域内だけでは担えない課題を地域外の力を補って新しい主体をつくる。

## ● 活動の内容

### 平成21年度

- ①「絵本と木の実の美術館」作家・集落・サポーターによる協働制作、運営
- ②カフェメニューの開発、試作、営業
- ③美術館グッズ開発、生産、販売
- ④各種イベント・ワークショップ（映画会、コンサート、田島征三サイン会・トークイベント、ワークショップルームでのワークショップ、原画展など）の実施
- ⑤集落のまっりの参加

## ● 活動の成果

### ・平成21年度

- ① 地域内外への情報発信
  - ・パブリシティ：(テレビ) 新日曜美術館、ワンダー×ワンダー、(雑誌) アエラ、ソトコト  
(新聞) 読売新聞、毎日新聞 新潟日報連載 他多数
  - ・全国からの視察受入：愛知県知事、香川県知事、高松市長、徳島市長、群馬県会議員、企業メセナ協議会他多数
- ② 美術館来場者数：夏 50 日間 31,000 名 秋 45 日間 3,300 名。美術館ファン・リピーターも増え友の会結成。
- ③ 若者の移住：美術館で出会ったスタッフが結婚、集落に移り住み夫婦で運営にあたる（2月に出産予定）。
- ④ 雇用創出：夏季スタッフ6名、有償ボランティア70名（美術館運営、カフェ運営）



作品の協働制作



美術館の完成・公開



カフェのメニュー試作と営業の様子



美術館の運営



グッズの開発(オリジナル絵本、お米パッケージ等)とショップの様子



ワークショップルーム



トークイベント

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

#### ① 冬季の営業

通年での営業体制づくり（集客、二次交通、雪・防寒対策、冬季プログラムの充実）

#### ② 若手の安定した雇用

大地の芸術祭期間中は有償ボランティアとして地域のお年寄りが集まる拠点にはなったが、大地の芸術祭開催年以外の集客・収入を得て安定した雇用を創出する。

### ・展望

#### ① 田島征三ファンのネットワーク化

：友の会の拡大、一過性ではない集客交流につなげる

#### ② 田島征三×地域の技術、材料を使ったグッズ開発

：すでにあるグッズに加え、全国のミュージアムショップやECサイトで売れる商品

#### ③ 〃

体験メニュー：何度来ても楽しい美術館づくり、リピーターの獲得

#### ④ 〃

展示の充実：展示スペース、ワークショップルームの活用